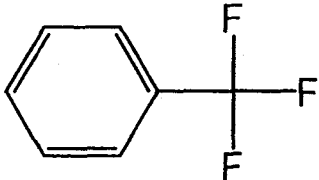


	<p>一肝細胞脂肪化：2500♀_24M、肝-クッハ・細胞肥大：2500♂♀_15・24M、肝-好塩基性巢増加：2500♂_15M、肝-混合細胞巢増加：1000以上♂_24M・2500♀_15M・1000♀_24M、腎-腎症：2500♀_15・24M)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Mice 混餌投与(250, 500, 1000 ppm)、2年間 (♂：30, 60, 145, ♀：45, 110, 255 mg/kg/day) 体重↓ (1000♂・250以上♀) 血液学的検査(RBC↓：1000♂♀_15M、Hgb↓・Hct↓：1000♂_15M) 血液生化学的検査(AIP↑：1000♂_3M・500以上♂_9M・1000♀_9M・500以上♀_15M、Bil↑：1000♂_3M・250以上♂_9・15M・1000♀_9M)</li> </ul> <p>変異原性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Ames 試験 (TA98, TA100, TA1535, TA1537) : 陰性 (With and without metabolic activation)</li> <li>• 染色体異常試験 (CHO cells) 陰性 (With and without metabolic activation)</li> </ul>				
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL15 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S56	0/18	—	1~5( $\mu$ g/L)
	底質	S56	0/18	—	0.01~0.2( $\mu$ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	※1 S57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

## 既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-86	CAS No.	98-08-8
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：(トリフルオロメチル)ベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 $\geq 98\%$ . 溶媒 (DMSO-溶解). プレート法 TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. 5000 $\mu$ g/plate まで実施した用量設定試験結果を参考に以下の濃度まで実施. (本試験 I) -S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA1535 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100, TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 $\mu$ g/plate (TA98 : 1000 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA1535 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 $\mu$ g/plate (TA98, TA100, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA100, TA1535, TA1537 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 1000 $\mu$ g/plate (TA1537 : 500 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) 2000 $\mu$ g/plate (TA98 : 1000 $\mu$ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 $\geq 98\%$ . 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/U. 1.5mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 1.5 mg/mL +S9mix 群 : 1.5 mg/mL 24 時間処理群 : 0.3 mg/mL (細胞毒性のため 0.15mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.3 mg/mL (細胞毒性のため 0.15mg/mL まで観察)		
反復経口投与 毒性・生殖発 生毒性併合試 験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	99.7%	
	用量	3 投与群 (20, 100, 500 mg/kg/day)	
	死亡	本試験(100 : ♀ 1/12、500 : ♂ 1/12・♀ 1/12→投与済、 500 : ♀ 1/12→分娩後死亡)	
NOEL	反復投与 : 20 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 20 mg/kg/day 未満		

	推定根拠	反復投与 相対重量(肝↑: 100以上♂・500♀) 組織学的所見(肝—小葉中心性肝細胞肥大: 100以上♂♀、 腎—近位尿細管硝子滴・近位尿細管壊死・近位尿細管拡張・ 近位尿細管塩基性化: 100以上♂) 生殖発生毒性 新生児体重↓: 20以上
	他の毒性	反復投与 血液生化学的検査(TP↑・Alb↑・Cho↑・TG↑・PL↑・Glu↓: 500♂) 絶対重量(肝↑: 500♂♀、腎↑: 500♂) 相対重量(腎↑: 500♂) 組織学的所見(胸腺—皮質萎縮: 500♀) 生殖発生毒性 新生児生存率↓: 500
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験が陰性であるが、NOEL20 mg/kg/day (生殖発生毒性については 20 mg/kg/day 未満) であることから第二種監視化学物質相当	
備考		

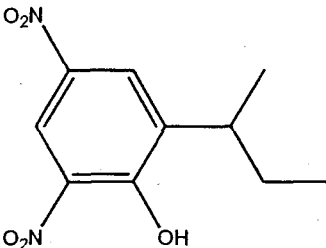


	<p>相対重量(腎↑: 250♂)</p> <p>剖検所見(盲腸-拡張: 250♂♀)</p> <p>組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大: 250♂♀、 腎-皮髓境界部近位尿細管好塩基性化・集合管好塩基性化・集合管拡張: 250♂♀、 腎-腎盂粘膜単純性過形成・皮髓境界部近位尿細管単細胞性壊死・円柱・腎盂拡張: 250♀、 膀胱-移行上皮単純性過形成: 250♂♀)</p>
回復性	腎↑、腎-皮質境界部近位尿細管好塩基性化・集合管拡張・円柱
他の毒性	<p>[EU-RAR・化学物質有害性評価書より引用]</p> <p>反復投与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Rat、強制経口(25, 100, 400 mg/kg)、28日間 NOAEL: 100 mg/kg 体重↓(400♂♀) 摂餌量↓(400♂♀) 血液生化学的検査(BUN↑・CHO↑・Glu↓: 400♂) 相対重量(腎↑・肝↑・精巣↑: 400♂) 組織学的所見(腎-近位尿細管硝子滴沈着: 400♂、 肝-門脈周囲肝細胞空胞化: 400♂)</li> <li>・Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 140 mg/kg/day)、90日間 NOAEL: 50 mg/kg/day 体重↓(140♂♀) 血液生化学的検査(AST↑・ALT↑: 140♀) 組織学的所見(肝-肝細胞壊死: 140♀、腎-尿細管石灰化: 140♂)</li> <li>・Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 160 mg/kg/day)、3世代 LOAEL: 15 mg/kg/day 体重↓(160♂♀) 相対重量(腎↑: 50以上♂・160♀) 組織学的所見(腎-尿細管変性/拡張: 15以上♂♀)</li> <li>・Rat、強制経口(100, 250, 400 mg/kg)、10週間 死亡: 100以上</li> </ul> <p>生殖発生毒性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Rat、混餌投与(25, 500, 2000 ppm)、親: 妊娠7~21日、児: 生後21~77日 親動物 摂餌量↓: 25以上 F1 体重↓: 25以上♂・2000♀ 摂餌量↓: 25以上♂ 摂水量↑: 2000♂♀</li> <li>・Rat、混餌投与(200, 650, 2000 ppm)(15, 50, 160 mg/kg/day)、3世代 生殖毒性 NOAEL: 15 mg/kg/day (200 ppm) 子宮重量↑・膈開口早期化・卵巣↓・精巣上体精子数↓: 650以上 精巣精子細胞↓: 2000</li> <li>・Rat、強制経口(2, 10, 50 mg/kg)、 ♂交配前12週間前より、♀交配前2週間前より妊娠・出産・授乳期まで 一般毒性 NOAEL: 10 mg/kg</li> </ul>

	<p>親生殖能 NOAEL : 50 mg/kg 肝↑・腎↑・下垂体↑・胸腺↓・TSH↑ : 50♂</p> <p>・Rat 強制経口投与 (75,150,300mg/kg/day) 親 : 妊娠 6~15 日 催奇形性はみとめられない 母体毒性 NOAEL : 75mg/kg/day、発生毒性 NOAEL : 300mg/kg/day 体重↓・摂餌量↓・死亡率↑ : 300 腎・脾臓の剖検所見 : 150 以上</p> <p>変異原性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98) : 陰性(With and without metabolic activation)</li> <li>・Ames 試験(TA1537, TA1535, TA100, TA98, E.coli WP2 uvrA) : 陰性 (With and without metabolic activation)</li> <li>・小核試験(マウス) : (陰性)</li> <li>・小核試験(マウス) : (陰性)</li> </ul>
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL15mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当
藻類生長阻害	<p>生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : OECD-TG201 培養方式 : 振とう培養 試験濃度 : 設定濃度 0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.26、0.61、1.7、3.8、9.2 mg/L (幾何平均値) 助剤 : DMF 及び HCO-40 (3:1) 100 mg/L (最高濃度区) 0-72hErC50 (実測値に基づく) &gt;9.2 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) =0.26 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG202 試験方式 : 半止水式、24 時間後に換水 試験濃度 : 設定濃度 0.022、0.046、0.10、0.22、0.46 mg/L 実測濃度 0.017、0.034、0.075、0.17、- (測定なし) mg/L (幾何平均値) 助剤 : DMF 及び HCO-40 (3:1) 4.6 mg/L (最高濃度区) 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.059 mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : OECD-TG211 試験方式 : 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度 : 設定濃度 0.010、0.022、0.046、0.10、0.22 mg/L 実測濃度 0.008、0.018、0.038、0.089、0.19 mg/L (時間加重平均値) 助剤 : DMF 及び HCO-40 (3:1) 2.2 mg/L (最高濃度区) 21dNOEC (実測値に基づく) =0.089 mg/L</p>

魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.07、0.13、0.24、0.42、0.94 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 及び HCO-40 (3:1) 10 mg/L (最高濃度区) 96hLC50 (実測値に基づく) =0.24 mg/L  また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.13 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 10/10) 0.24 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 1/10、48hr 9/9、72hr 6/6、96hr 5/5)					
魚類初期生活段階毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG210 試験方式：流水式 物質濃度：設定濃度 0.0050、0.013、0.035、0.094、0.25 mg/L 実測濃度 0.0051、0.012、0.033、0.087、0.24 mg/L (算術平均値) 助剤：DMF 約 100 $\mu$ L/L NOEC (実測値に基づく) =0.033 mg/L 【推定根拠 孵化後の生存率、全暴露期間の生存率、正常個体率、体重、体長】					
他の毒性情報	[化学物質の環境リスク評価 第2巻 (環境省環境保健部環境リスク評価室) より引用] ミジンコに対する毒性として ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.085 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 48hEC50=0.19 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.024 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.071 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.077 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.10 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21dNOEC=0.12 mg/L 魚類に対する毒性として ・ <i>Oncorhynchus mykiss</i> 96hLC50=0.22 mg/L ・ <i>Oncorhynchus mykiss</i> 91dNOEC=0.006 mg/L ・ <i>Oryzias latipes</i> 56dNOEC > 1.9 mg/L					
生態影響判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.059mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.089mg/L 及び魚類初期生活段階試験において NOEC=0.033mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。					
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界	
	水質	S51	0/8	—	5( $\mu$ g/L)	
		S52	0/3	—	0.4( $\mu$ g/L)	
		H9	0/123	—	1.1( $\mu$ g/L)	
	底質	S51	0/8	—	—	0.25( $\mu$ g/g-dry)
		S52	3/3	—	0.05~0.07( $\mu$ g/g-dry)	—
		H9	43/129	—	0.17~1.3( $\mu$ g/g-dry)	0.15( $\mu$ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—	
	備考	※1 S52、S53、H10 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

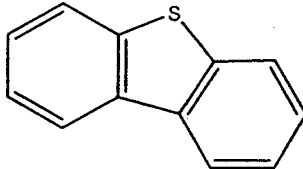
## 既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-828	CAS No.	88-85-7
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (平成16年7月2日告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 2, 4-ジニトロ-6-(1-メチルプロピル)フェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	第二種監視化学物質として、平成16年7月2日に告示済み。 生殖毒性がみとめられることから化学物質排出把握管理促進法の第一種指定化学物質に 指定されており、人の健康に係る被害を生ずるおそれがあることから、第二種監視化学物 質相当。		
藻類生長 阻害	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201 培養方式: 振とう培養 試験濃度: 設定濃度 0.10、0.19、0.36、0.69、1.3、2.5 mg/L 実測濃度 0.095、0.18、0.34、0.68、1.3、2.4 mg/L (幾何平均値) 助剤: DMF 98 μL/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) = 1.4 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 0.36 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 止水式 試験濃度: 設定濃度 0.20、0.36、0.63、1.1、2.0 mg/L 実測濃度 0.18、0.34、0.60、1.0、1.9 mg/L (幾何平均値) 助剤: DMF 38 μL/L 48hEiC50 (設定値に基づく) = 0.40 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度: 設定濃度 0.0080、0.022、0.063、0.18、0.50 mg/L 実測濃度 0.0078、0.021、0.062、0.17、0.46 mg/L (時間加重平均値) 助剤: DMF 100 μL/L 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.062 mg/L		



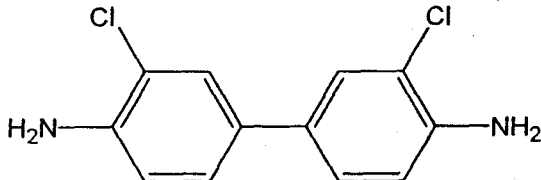
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 0.060、0.090、0.13、0.20、0.30 mg/L 実測濃度 0.059、0.091、0.13、0.20、0.30 mg/L (幾何平均値) 助剤：DMF 100 $\mu$ L/L 96hLC50 (実測値に基づく) =0.28 mg/L  また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.20 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (72hr 1/9、96hr 1/9) 0.30 mg/L 群：異常遊泳 (動作の緩慢) (24hr 1/8、48hr 2/8、72hr 4/4、96hr 4/4)、 表層集中 (48hr 3/8)
生態影響 判定根拠	ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.40mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.062mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.28mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

## 既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-3352	CAS No.	132-65-0
判定案	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：ジベンゾチオフェン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.32、0.50、0.80、1.3、2.0、3.3 mg/L 実測濃度 0.18、0.29、0.45、0.72、1.2、1.9、3.1 mg/L (初期実測値) 0.14、0.22、0.33、0.55、0.97、1.7、2.8 mg/L (幾何平均値) 助剤： THF 及び HCO-40 (11:140) 100 mg/L 0-72hErC50 (幾何平均値に基づく) =1.6 mg/L 0-72hNOECr (幾何平均値に基づく) =0.55 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.073、0.13、0.23、0.40、0.70 mg/L (幾何平均値) 助剤： THF 及び HCO-40 (1:14) 30 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) =0.44 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、週に3回換水 試験濃度： 設定濃度 0.010、0.025、0.070、0.19、0.50 mg/L 実測濃度 0.008、0.019、0.054、0.15、0.43 mg/L (時間加重平均値) 助剤： DMF 及び HCO-40 (1:1) 30 mg/L 21dNOEC (実測値に基づく) =0.054 mg/L		

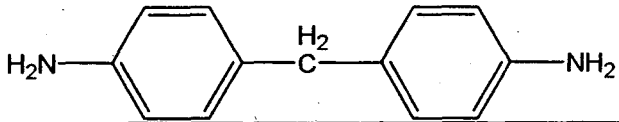
魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>          試験法：OECD-TG203          試験方式：半止水式、24 時間毎に換水          物質濃度：設定濃度 0.33、0.60、1.0、1.8、3.3 mg/L                    実測濃度 0.24、0.44、0.85、1.5、2.6 mg/L (幾何平均値)          助剤：THF 及び HCO-40 (1:14) 99 mg/L          96hLC50 (実測値に基づく) =1.4 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。          0.33 mg/L 群及び 0.60 mg/L 群：異常遊泳 (24hr10/10、48hr10/10、72hr10/10、96hr 10/10)          1.0 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 10/10、72hr 9/9、96hr 7/9)                    平衡喪失 (96hr 2/9)          1.8 mg/L 群：異常遊泳 (24hr 10/10、48hr 7/9)                    平衡喪失 (48hr 2/9、72hr 6/6、96hr 5/5)</p>																												
魚類初期生活段階毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>          試験法：OECD-TG210          試験方式：卵・胚期 半止水式、3 日以内に 1 回換水                    仔魚・稚魚期 流水式          物質濃度：設定濃度 0.010、0.032、0.10、0.32、1.0 mg/L                    実測濃度 0.0087、0.028、0.088、0.27、0.88 mg/L                            (時間加重平均値 (卵・胚期) 及び算術平均値 (仔魚・稚魚期))          助剤：DMF 及び HCO-60(1:1) 80 mg/L          NOEC (設定値に基づく) =0.032 mg/L 【推定根拠 体重、体長】</p>																												
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.44mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.054mg/L、魚類急性毒性試験において 96hLC50=1.4mg/L 及び魚類初期生活段階試験において NOEC=0.032 mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>																												
環境調査 ※1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>媒体</th> <th>実施年度</th> <th>検体</th> <th>検出範囲</th> <th>検出下限値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">水質</td> <td>S58</td> <td>0/45</td> <td>—</td> <td>0.05~0.1(<math>\mu</math>g/L)</td> </tr> <tr> <td>H10</td> <td>0/42</td> <td>—</td> <td>0.02(<math>\mu</math>g/L)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">底質</td> <td>S58</td> <td>6/45</td> <td>0.001~0.005(<math>\mu</math>g/g-dry)</td> <td>0.001~0.007(<math>\mu</math>g/g-dry)</td> </tr> <tr> <td>H10</td> <td>28/39</td> <td>0.0022~0.14(<math>\mu</math>g/g-dry)</td> <td>0.0021(<math>\mu</math>g/g-dry)</td> </tr> <tr> <td>魚類</td> <td>H10</td> <td>15/39</td> <td>0.00071~0.013(<math>\mu</math>g/g-wet)</td> <td>0.00034(<math>\mu</math>g/g-wet)</td> </tr> </tbody> </table>	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値	水質	S58	0/45	—	0.05~0.1( $\mu$ g/L)	H10	0/42	—	0.02( $\mu$ g/L)	底質	S58	6/45	0.001~0.005( $\mu$ g/g-dry)	0.001~0.007( $\mu$ g/g-dry)	H10	28/39	0.0022~0.14( $\mu$ g/g-dry)	0.0021( $\mu$ g/g-dry)	魚類	H10	15/39	0.00071~0.013( $\mu$ g/g-wet)	0.00034( $\mu$ g/g-wet)
媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値																									
水質	S58	0/45	—	0.05~0.1( $\mu$ g/L)																									
	H10	0/42	—	0.02( $\mu$ g/L)																									
底質	S58	6/45	0.001~0.005( $\mu$ g/g-dry)	0.001~0.007( $\mu$ g/g-dry)																									
	H10	28/39	0.0022~0.14( $\mu$ g/g-dry)	0.0021( $\mu$ g/g-dry)																									
魚類	H10	15/39	0.00071~0.013( $\mu$ g/g-wet)	0.00034( $\mu$ g/g-wet)																									
備考	<p>※1 S59、H11 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>																												

## 既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-800	CAS No.	91-94-1
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として昭和62年10月17日に告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称: 3, 3'-ジクロロベンジジン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、昭和62年10月17日に告示済み。 変異原性及びがん原性がみとめられることから、指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種: <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法: OECD-TG201 培養方式: 静置培養 (1日2回軽く攪拌) 試験濃度: 設定濃度 0.046、0.10、0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 0.021、0.041、0.10、0.19、0.67、2.1、3.8、6.1 mg/L (幾何平均値) 助剤: アセトン 100 mg/L 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 1.4* mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 0.15* mg/L *試験は3, 3'-ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3'-ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG202 試験方式: 半止水式、24時間後に換水 試験濃度: 設定濃度 0.75、1.0、1.3、1.8、2.4、3.2、4.2 mg/L 実測濃度 0.64、0.94、1.1、1.7、2.2、2.7、3.4 mg/L (幾何平均値) 助剤: アセトン 42 mg/L 48hEiC50 (実測値に基づく) = 1.9* mg/L *試験は3, 3'-ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3'-ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種: オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法: OECD-TG211 試験方式: 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度: 設定濃度 0.10、0.18、0.32、0.56、1.0 mg/L 実測濃度 0.083、0.16、0.27、0.47、0.89 mg/L (時間加重平均値) 助剤: DMSO 100 μL/L 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.36* mg/L *試験は3, 3'-ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3'-ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。		

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i>          試験法：OECD-TG203          試験方式：半止水式、24時間毎に換水          物質濃度：設定濃度 0.32、0.42、0.56、0.75、1.0、1.3、1.8、2.4、3.2 mg/L          実測濃度 0.20、0.26、0.41、0.51、0.86、1.2、1.7、2.0、2.8 mg/L          (幾何平均値)          助剤：アセトン 32 mg/L          96hLC50 (実測値に基づく) = 0.51* mg/L          *試験は3, 3' -ジクロロベンジジン二塩酸塩で行っており、毒性値については3, 3' -ジクロロベンジジンに換算した値を記載している。</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。          0.41 mg/L 群：内出血またはうっ血 (96hr 1/10)          0.51 mg/L 群：内出血またはうっ血 (96hr 2/7)          0.86 mg/L 群：不活発 (24hr 1/10、48hr 5/9)          異常遊泳 (48hr 3/9、72hr 4/6)、          横転 (48hr 1/9)          内出血またはうっ血 (96hr 2/3)          1.2 mg/L 群：不活発 (24hr 2/10、48hr 2/7)          異常遊泳 (48hr 1/7、72hr 1/4)          内出血またはうっ血 (72hr 1/4、96hr 1/1)          1.7 mg/L 群：不活発 (24hr 5/10、48hr 2/2)          内出血またはうっ血 (72hr 1/1、96hr 1/1)</p>				
生態影響判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.9mg/L であり、構造中に芳香族アミンを有すること、かつ魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.51mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54 H15	0/21 1/57	— 0.014(μg/L)	0.01~7(μg/L) 0.010(μg/L)
	底質	S54	0/21	—	0.0003~0.9(μg/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	<p>※1 S55、H16 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

## 既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-40	CAS No.	101-77-9
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 (指定化学物質として平成元年3月22日に告示済み) 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4, 4'-メチレンビスベンゼンアミン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
人健康影 響判定根 拠	指定化学物質として、平成元年3月22日に告示済み。 変異原性、反復投与毒性試験において重要な影響及びがん原性がみとめられることから、 指定化学物質相当。		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.43、0.93、2.0、4.3、9.3、20 mg/L 実測濃度 0.18、0.38、0.80、1.8、4.0、8.6、19 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 12 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 4.0 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24時間後に換水 試験濃度： 設定濃度 0.20、0.63、2.0、6.3、20、63、200 mg/L 実測濃度 0.17、0.57、1.8、5.9、19、62、190 mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hErC50 (設定値に基づく) = 2.5 mg/L		
ミジンコ 繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0060、0.019、0.060、0.19、0.60 mg/L 実測濃度 0.0052、0.018、0.060、0.18、0.59 mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (実測値に基づく) = 0.0052 mg/L		